

日本聖公会北関東教区 静想日

「燃える愛の火——聖書に神の火を探る」

2025年5月28日（水） 小山祈りの家

司祭 ヨハネ 井田 泉

開会礼拝

聖歌 ♪ 聖なる霊よ 愛の火をともすため（テゼ「すべての人よ 主をたたえよ」39）

司式者 主よ、私たちの口を開いてください

会衆 わたしたちは、主の誉れを現します

司式者 栄光は、父と子と聖霊に

会衆 初めのように、今も、世々に限りなく アーメン

司式者 主をほめたたえましょう

会衆 主のみ名をたたえます

詩編 第119編

105 あなたの言葉はわたしの足のともし火 || わたしの道の光

106 正しい^{さば}審きを守ろうと || わたしは心に誓った

107 主よ、わたしは苦しみあえいでいる || み言葉のとおり^{まこと}に命を与えてください

108 主よ、わたしの献げる賛美を喜び || あなたの審きを示してください

109 命にかかわることがあろうとも || わたしはあなたの教えを忘れない

111 あなたの諭^{さと}しはとこしえにわたしの嗣業^{しぎょう} || わたしの心の喜び

112 まことを尽くしてあなたのおきてを守ろう || いつまでも、終わりなく

114 あなたはわたしの逃れ場、わたしの^{たて}盾 || わたしはあなたのみ言葉を待ち望む

栄光は || 父と子と聖霊に

初めのように、今も || 世々に限りなく アーメン

聖書 ルカによる福音書 第24章45節から

イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムか

ら始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。(24:45-51)

昇天日特禱

全能の神よ、わたしたちは独りのみ子イエス・キリストが天に昇られたことを信じます。どうかわたしたちも心と思いを天に昇らせ、絶えず主とともにおらせてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

聖書を読み、黙想するための祈り

わたしたちを教えるために聖書を記させられた主よ、どうかこれを聞き、これを読み、心を込めて学び、深く味わって魂の養いとさせてください。今日の静想の時に、聖霊を豊かに注いでわたしたちを導いてください。み子イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、わたしたちとともにありますように。アーメン

39 Tui amoris ignem 聖なる霊よ 愛の火を Sei naru rei yo, ai no hi wo

The musical score is written for voice and piano. It features a treble and bass clef with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The tempo is marked as quarter note = 72. The score is divided into two systems. The first system has a piano (p) dynamic marking. The lyrics are: 'Ve - ni San - cte Spi - ri - tus, tu - i a - mo - ris i - gnem ac - cen - de. せ い な る れ い よ あ い の 火 を と も す た め'. The second system has lyrics: 'Ve - ni San - cte Spi - ri - tus, ve - ni San - cte Spi - ri - tus. お い で く だ さ い せ い な る れ い よ'. The piano accompaniment consists of chords and simple melodic lines in both hands.

Music : J.Berthier
© Ateliers et Presses de Taizé, 71250 Taizé Community

第1講話 アブラハムの見た松明（創世記）

15:1 これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。

「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。」

……

5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」

6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

7 主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」

8 アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましようか。」9 主は言われた。「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのもとに持って来なさい。」

10 アブラムはそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。

11 禿鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、アブラムは追い払った。

12 日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。……

17 日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」

-
- ・「信仰の父」と呼ばれるアブラハムも、過ちと葛藤、深い悩みを抱えた人。
 - ・ここに描かれるのは神とアブラハム（とその子孫＝神の民）との契約の場面。
 - ・契約の当事者双方が「裂かれた動物の間を通る」のは当時の契約のやり方。「契約を破れば自分の身が裂かれてもよい」ということを示す。
 - ・しかしここでは、神のみが「燃える松明」となって通られる。「燃える松明」は神の愛の火、また愛に燃える神ご自身。人間の弱さをご存じである神は、ご自分が契約の全責任を負われる。しかしその光景と意味は、アブラハムの胸に刻まれる。
 - ・契約とは、神が「わたしはあなたがたの神であり、あなたがたはわたしの民である」（エレミヤ 30:22）ということを確認し、民（わたしたち）がそれに応答・参与すること。この上なく深く強い関係の締結。神は、もはやわたしたちなしに神であろうとはされず、また、神なしのわたしたちはあり得ない。新しい契約ではイエスの身が裂かれる。

黙想 この物語の光景を思い浮かべよう。神の愛がわたしたちのために燃えている。神がわたしたちを愛の契約のうちに捕らえていてくださる。

第2講話 モーセの見た燃える柴（出エジプト記）

3:1 モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。2 そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。3 モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

4 主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、……

7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。8 それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地……へ彼らを導き上る。……

10 今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」

……

4:20 モーセは、妻子をろばに乗せ、手には神の杖を携えて、エジプトの国を指して帰って行った。

13:21 主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。

-
- ・ 神の民はエジプトで奴隷の生活を強いられた。神はその民の苦しみを見、叫びを聞き、痛みを知られた。神はそれを放置できない。民の苦しみのゆえに神は痛み、民を救い出すことを決意される。
 - ・ モーセが見た「燃えて燃え尽きない柴」は、燃えて燃え尽きない神の愛の火を示す。
 - ・ 神はモーセを選び、彼をとおして行動される。

黙想 神がこの世界の、またわたし（たち）の苦しみの現実を見つめ、痛んでおられる。

神の愛の火がわたしたちのために燃えている。

その火は、わたしたちのために燃えて燃え尽きない。

神は新しい現実を造り出すために、わたしたちを用いられる。

そのとき、神はわたしたちに必要なもの、力を与えてくださる（神の杖）。

第3講話 イエスのうちに燃える愛の火

- ・イエスが「モーセの書の『柴』の個所」と言われたのは上記の場面（マルコ 12:26）。
- ・イエスは主の僕としてモーセの使命を継承していることを自覚しておられた。
- ・イエスのうちには神の愛の火が燃えていた。それを次のマタイ福音書の言葉が示す。

マタイによる福音書

9:35 イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた。36 また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。

ヨハネによる福音書

11:32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、34 言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言った。35 イエスは涙を流された。36 ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。

- ・この物語は、イエスのうちに燃える愛の火を示す一つの例。
- ・イエスが「涙」、「汗」（ルカ 24:44）、「血」（ヨハネ 19:34）を流されたことを思う。

ルカによる福音書

24:13 この日、二人の弟子がエマオという村へ向かって歩きながら、14 この一切の出来事について話し合っていた。15 話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。16 しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。…… 29 二人が無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。30 一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。31 すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。32 二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

- ・イエスの燃える愛の火は、今、弟子たちのうちに燃える。

黙想 イエスのうちに愛の火が燃えている。それが言葉、行動となって現れる。
イエスの愛がわたしたちに向かって、わたしに向かって燃えている。

第4講話 イエスの昇天と聖霊降臨

- ・イエスは復活の後、40日にわたって何度もご自身を弟子たちに示された（使徒1:3）。そして弟子たちを祝福しつつ天に昇られた（ルカ24:50-51。冊子1-3頁参照）
- ・イエスは最後の晩餐においても、昇天に際しても、弟子たちに聖霊を送る約束をし、それを待ち望んで祈るように言われた。

使徒言行録

2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

- ・祈る弟子たちの群れに、また一人ひとりに、燃える神の愛の火（聖霊）が注がれた。これが教会を誕生させた。
- ・わたしたちは水によって洗礼を受けた／受ける。それは実は、かつて洗礼者ヨハネが予告した「聖霊と火」による洗礼（ルカ3:16）である。洗礼によってわたしたちは聖霊を受けた。わたしたちが忘れていたとしても、その火は今も燃えている。燃えて燃え尽きない。
- ・パウロは「“霊”の火を消してはいけません」（テサロニケI 5:19）と呼びかける。
- ・パウロの語る福音の核心を聞いてみよう。

ローマの信徒への手紙

5:5 わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。6 実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、不信心な者のために死んでくださった。……8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

- ・聖霊は、このイエス・キリストをわたしたちにはっきり分からせ、確信させ、喜びに満ちたし、わたしたちを動かす（ヨハネ14:26、ルカ24:48-49）。

黙想 聖霊がわたしたちに、このわたしに与えられていることを思う。

同時に、繰り返し新しく聖霊を祈り求めよう。

み言葉と聖霊はわたしを生かし、教会を生かす。

聖霊を求める祈り

聖霊よ、おいでください。

聖霊よ、あなたは風、神の息吹。

わたしたちに命の息吹を与えてください。

聖霊よ、あなたは火、燃える炎。

わたしたちの心を清め、愛によって燃やしてください。

聖霊よ、あなたは光。

わたしたちの闇を照らしてください。

聖霊よ、あなたは命。

わたしたちに命を与えてください。

聖霊よ、あなたは愛。

あなたの愛がわたしたちを慰め、励まし、力づけてください。

聖霊よ、あなたは力。

あなたの力によって悪しき力を滅ぼし、み国を来たらせてください。

聖霊よ、あなたは導き手。

わたしたちを教えて、主イエス・キリストをはっきりと知り、確信させてください。

聖霊よ、あなたは弁護者。

わたしたちを責める者から守ってください。

聖霊よ、あなたは執り成し主、

わたしたちのために祈ってください。

聖霊よ、おいでください。

わたしたちに臨んでください。わたしたちに満ちてください。わたしたちを新しくしてください。

聖霊よ、あなたはわたしたちのうちに宿り、

わたしたちとともに、わたしたちをとおして働いてくださいます。アーメン

(井田)

聖歌 187 (父の家に昇りゆきて)

187

復活節・昇天日

1 ち ち の い え に の ほ り ゆ き て
 2 世 に の い ま ら し て の な と や き と の な き み り て
 3 さ だ め ら し て し の な と や き と の な き み り て

1 父の家に 昇りゆきて
 ほめうたのなかに ますます主よ
 罪の重荷 負える者に
 誓いの聖霊 降くだしたまえ

ほ め う た の の な か に ま し ま す し ゃ
 か な た う た め ら し て し の な と や き と の な き み り て
 あ な た た め ら し て し の な と や き と の な き み り て

2 世にいまして 悩みの道
 悲しみの月日 過ぎし主よ
 世の旅路を 歩む民を
 み国に導き 迎えたまえ

つ み の お も に お え る も の に
 世 の た ら じ を の あ ゆ る た の に
 わ れ の ら 主 を の の む に た の に

3 定められし 時となりて
 再び主イエスは 来たりたもう
 われらを主の 右に立てて
 永遠とわの喜びを 与えたまえ

ち か い の せ い れ い く だ し た ま え
 み く に の に む ち び き く だ し た ま え
 と わ の の よ ろ こ び を あ た え た た ま え

6686D (DSM)

Thou art gone up on high
 Emma Leslie Toke (1812-1872)

NEARER HOME
 Isaac Baker Woodbury (1819-1858)
 harm. Arthur Seymour Sullivan (1842-1900)